

共同薬局だより ～そよかぜ～



特集：手足口病

しばらくご無沙汰していた「そよかぜ」ですが、疾患特集号を随時更新する形で復活します。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

(手足口病とは?)



手足口病は、乳幼児、小児によく見られる疾患で、5～8月に流行し、手のひら、足の裏、口の中の発疹と水疱を特徴とします。一般的には、発熱で始まる軽い病気で、ほとんどの人が、1週間から10日程度で自然に治ります。

合併症も、ほとんどありませんが、まれに髄膜炎等の中樞神経症状が発生し、入院が必要となります。

(手足口病の原因は?)

手足口病は、いくつかのウイルスが原因で起きます。最も一般的なのはコクサッキーウイルスA16ですが、この他のエンテロウイルス71なども原因となります。いずれのウイルスでも現れる症状は同じです。

(手足口病の症状は?)

手足口病の発疹の特徴は、手のひら、足の裏、手や足の指と指の間を中心とした水疱性の発疹(中に水を持った水ぶくれのような小さな発疹で一見水疱瘡に似ている)で、口の中にも同じような発疹が見みられます。病気の始まりのころには、一般的な微熱を伴い、また、軽いのどの痛みとそれによる食欲低下(おなかはずくが、痛みのため食べられない)程度であることが大半です。発疹は、手足全体、肘や膝、或いは、おしりあたりにみられることもあります。





(手足口病の発疹・水疱はどのようなものですか?)

口の発疹は、舌や口の内側の粘膜に軽度の痛みを伴った小さな水疱です。水疱が破れて、潰瘍状になることもあります。一方皮膚の発疹は、手のひらと足の裏に限ってできる小さな赤い発疹で、小水疱を伴うこともあります。かゆみや痛みを伴わないのが普通です。

(手足口病の潜伏期間・感染経路は?)

感染してから、手足口病の症状がでるまでの期間は、一般的に3日から6日と報告されています。感染者の鼻やのどからの分泌物や便に排出されるウイルスが、経口・飛沫・接触などの経路により人から人に感染します。

(手足口病はどのような人がかかりますか?)

通常は、10歳以下の乳幼児・小児に発生しますが、大人もかかることがあります。一度かかると免疫が成立し(防御の仕組みができあがる)ますが、手足口病は複数のウイルスによって引き起こされますので、免疫の成立しているウイルスとは別のウイルスによって再び引き起こされることがあります。



(手足口病の治療法は?)

手足口病に対する特異的な治療法はありません。発熱、頭痛、口腔内の潰瘍の痛み等のそれぞれの症状に対する対症療法が中心です。

(手足口病の予防方法は?)

- 手足口病には、有効なワクチンがありません。従って
- ・手洗いの励行(これは特におしめ等を交換した時重要です)
 - ・汚れた衣服は洗濯する といった一般的な注意が必要です。

参考資料)

日本医師会「手足口病」解説
国立感染症研究所 HP

